

台風も過ぎ去り、草花の色も深くなりました。地域の医療機関様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。今回の地域医療連携室ニュースは、**歯科・歯科口腔外科**を特集しお伝えします。

【歯科・歯科口腔外科外来】



7月の初診患者数は295人で、そのうち紹介患者数は177人と60%の紹介率です。紹介元は市内より市外の医療機関が多く、近隣の医療機関の先生方との信頼関係の深さがうかがえます。平成22年度の紹介の多い疾患は、埋伏歯関連・炎症性疾患・一般歯科の順でした。

右の写真は、外来診察室で診察台は5台あります。



【口腔ケアセンター】



平成16年に東館2階に開設され、周術期・ADL低下・化学療法・放射線療法・糖尿病教育入院などの患者様を対象にしています。動けない患者様の場合は、歯科衛生士が病棟まで出診して口腔ケアを実践しています。また、口腔ケアセンターでの処置が必要な場合は、ベットでも出診できるように広いスペースが確保されています。このような口腔ケアを実践している結果、術後や入院中の合併症予防に繋がっています。

【口腔ケア便り】

口腔ケア便り

第8版 平成23年6月8日
発行 市立池田病院 口腔ケアセンター

口腔粘膜疾患について

口腔粘膜とは・・・
 口蓋粘膜、歯槽粘膜、頬粘膜、上下唇粘膜、舌粘膜、口腔粘膜などの総称です。この粘膜に発生する病気を総称して口腔粘膜疾患とよんでいます。
 口腔粘膜疾患は口腔粘膜に限らず現れる病変の他に、皮膚疾患と関連のある病変、内臓疾患などの全身疾患の部分症状として現れる病変もあります。ウイルスや細菌などの局所感染、自己免疫疾患、薬剤・金属アレルギー、色素沈着、自覚症などの前駆病変など、非常に多くの病変があり極めて多彩です。
 口腔粘膜は皮膚と同様に色調など、それぞれ個人差があり、また日常においても日によって、局所的、全身的影響により変化することがあります。
 日ごろから粘膜部位にも目を向け、患者の口腔粘膜を観察して下さい。

代表的な口腔粘膜疾患（白い変化を主症状とするもの）

- ・口内炎（アフタ性口内炎）
 口腔粘膜（舌、歯肉、頬粘膜など）に出現する炎症性病変の総称をいいます。




原因・・・歯や不適合な歯科補綴物（歯橋、金属冠などの）刺激、口腔内の不衛生、細菌感染、ビタミン不足、ストレスなど多くの原因が考えられます。
 症状・・・数ミリ程度の灰白色の痛みを伴う浅い潰瘍を作ります。
 治療・・・全身的、局所的に問題がなければその季節経過観察しますが、一般的にはステロイド軟膏や貼付薬、噴霧薬などを使用します。
 歯や歯科補綴物の刺激があれば調整を行います。
 原則的には再発はなく、通常1週間から10日くらいで治癒します。

院内 Web にて、年に2回発行されています。写真が掲載されているので疾患について、大変理解しやすい内容となっています。（写真にちょっとびっくりしました！）



当院は、急性期病院として専門性の高い医療を提供していく中で、地域住民が、安心して適切な医療を受けることができる院内環境の整備に努めています。今後とも、地域医療連携を強化してまいりますので、よろしくお願いいたします。